

二中学区地域の輪をつくる会

3つの誓い

- ふれあいの輪を 広げましょう。
- あいさつを かわしまししょう。
- 明るい家庭生活を 築きましよう。

vol.93

ふくわ

●発行 二中学区地域の輪をつくる会 ●編集 広報委員会 ●事務局 市毛コミュニティセンター内・ひたちなか市市毛980・TEL.029(272)3766 ●印刷 弘美印刷(株)



昭和15年1月当時の勝田駅

明治30年(1897)2月25日、日本鉄道磐城線(後に海岸線、現JR常磐線)の水戸(平間)が開通し、佐和駅が開設され、水戸駅の次は、佐和石神(現 東海)、大甕と続いていきました。その後、明治43年(1910)3月18日に、武田地区にやつと

勝田駅の開設

勝田駅は武田村 大谷 新介氏の 尽力によって開設

二中学区の歴史を探る

私たちが暮らす二中学区は、時代とともに様々な変化を遂げてきました。今は無くなってしまった畑や工場、今も子どもたちが通う小学校……、重ねてきた歴史は多く、人々の営みは少しずつ形を変えて今に至ります。生まれ育ったこの地の歴史を少し振り返ってみましょう。



大谷新介 自画像

勝田駅が開設されたのは、大谷新介氏の尽力が設置されたのは私財を投じた勝田村長 大谷新介氏の尽力がありました。現在、勝田駅の東口を出て、駅前交番を過ぎると、右手の駐車場の入り口の近くに大きな「紀功碑」が建っています。大谷新介氏は、弘化元年(1844)6月12日、水戸藩領内の武田村に生まれ、明治22年(1889)の市町村制の施行で、勝倉・三反田・金上・武田の旧村で構成する勝田村の収入役となり、明治34年、勝田村長に就任しました。その後、村勢発展のため明治36年4月13日、日本鉄道への駅増設の請願を行いました。会社から思いがけない付帯条件を付けられ、それは、「漁港として発展し、那珂川水運の起点となっていた湊町(元那珂湊市)を目的とする鉄道を計画し、その起点を新設請願の駅予定地とするならば、具体化の策を考えよ」という内容でした。会社の立場からすれば、平凡な農村にすぎない勝田村内に新駅を設置しても益はわずかにすぎないと考えたのでしよう。その後大谷氏は、勝田村を起点として湊町を経由して平磯町に至る鉄道を計画し「武平鉄道」(ぶへい)と名付けて敷設許可を政府に願ひ出しましたが、湊町の反応は冷ややかなものであり「武平鉄道」の実現は大変な難産となつてしまいました。結局、「武平鉄道」の企画以来、約10年の年月を経て大正2年(1913)12月25日、勝田(湊間の鉄道)が完成しました。その間、大谷氏は鉄道用地として自らの所有地を寄付し、株式申し込みの勧誘に私財を投じました。その後、昭和36年(1961)4月1日に勝田電車区が建設され、6月1日から直通流近郊電車(401系電車)通称「赤電」(塗色が赤13号と呼ばれる赤い電車)が上野(勝田間)を2時間20分走るようになりました。昭和57年(1982)11月のダイヤ改正で、特急「ひたち」の一部が停車するようになり、今では、特急が1時間に2本停車し上野まで1時間20分程度で走行できるようになりました。



現在の大谷新介紀功碑



大正14年紀功碑前で撮影



昭和35年7月当時の市毛踏切 (当時の遮断機は自動ではなく手動)



常磐線に電車が走る

月25日、勝田(湊間の鉄道)が完成しました。その間、大谷氏は鉄道用地として自らの所有地を寄付し、株式申し込みの勧誘に私財を投じました。その後、昭和36年(1961)4月1日に勝田電車区が建設され、6月1日から直通流近郊電車(401系電車)通称「赤電」(塗色が赤13号と呼ばれる赤い電車)が上野(勝田間)を2時間20分走るようになりました。昭和57年(1982)11月のダイヤ改正で、特急「ひたち」の一部が停車するようになり、今では、特急が1時間に2本停車し上野まで1時間20分程度で走行できるようになりました。



コロナ禍での「ふくわ」編集

コロナ禍で二中学区地域の輪をつくる会や各自治会では、感染予防の観点から、大勢が集まる事業を自粛しているところがあります。「ふくわ」の発行につきましては、休刊することは避け、発行に向けて、掲載内容の検討をしてきました。前号では、書面表決による本会の総会結果やふれあい会議など、本会が取り組んでいる事業について、掲載したところがあります。元の市毛コミュニティセンターの事務長であった山本裕伸さん(勝田本町)が「二中学区の歴史を探る」と題して、第5章から構成され約100ページにわたる、私たち二中学区の歴史をまとめられました。第1章では、「神社・寺院めぐり」、第2章「農村から工業都市へ」、第3章「ムラのうつりかわり」、第4章「学校の創立」、第5章「小場江用水」でまとめられています。二中学区の歴史を再認識するうえで貴重だと考え、今号では、この中から、勝田駅と学区の小中学校の歴史を掲載することにしました。今後機会があれば、他の内容についても掲載を検討したいと考えております。全内容がまとめられているものは、市毛コミュニティセンターに備え付けてあります。

学校の創立

教育の普及

近代的な教育が始まったのは、明治5年の学制の公布からであります。政府は明治5年8月2日、学制の趣旨を宣言した太政官布告とともに、「学制」を公布しました。

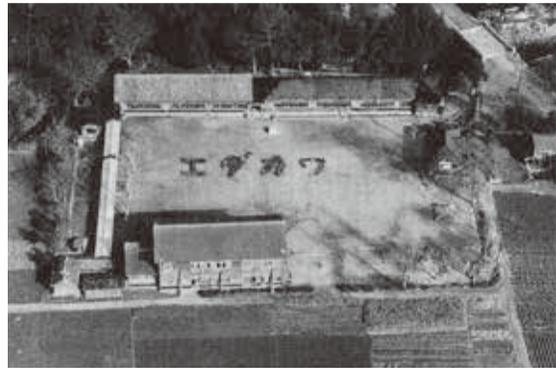


明治時代の教科書

学制の実施によって、従前設立されていた府県の諸学校、私塾、寺子屋等はいったん廃止されて、新しく学制に基づいて学校が設立されました。学部省はまず小学校の設立に力を注ぎました。府県においてもこの方針に基づいて小学校の設立に特に努力を傾けていました。

これによって明治8年には全国に約2万4500校の小学校が設立され、児童数は約195万人、就学率は約35%（男約50%、女約19%）となっており、児童数は、その後さらに増加し、就学率も上昇してきました。茨城県でも、学制の趣旨に従って、明治6年（1873）に「小学校設立規則」「小学教則」「小学校則」を定め、小学校設置の大綱が示されました。茨城県下では、明治6年2

月3日に水戸柵町に共立小学校が開設されたのがもっとも早く、同年9月に市毛小・津田小、10月に枝川小などができました。（勝田市史・那珂湊市史）



枝川小旧校舎の全貌（昭和30年）



現在の枝川小学校



なお、創成期の学校は、新築の校舎ではなく、郷蔵、寺院、個人宅等を使い開校したものでした。

- ・枝川小…郷蔵を再利用
- ・市毛小…民家（市毛平介 宅）
- ・津田小…民家（大津栖霞 宅）

※郷蔵（ごうくら）…江戸時代、郷村に設置された共同の倉庫。年貢米の一時的な保管倉庫で、のちには備荒用の穀物の貯蔵倉としても利用された。



川田尋常小学校職員卒業生（大正13年3月）

小学校の整理統合

明治19年（1886）に小学校令が公布。教育制度が大幅に改定され、多くの小学校が整理統合されました。1行政区内に尋常小学校一校、1郡役所管内に高等小学校を一校もしくは二校設置となりました。その結果、本地域には枝川尋常小学校が設置され、枝川・津田・市毛・堀口の子どもたちが、枝川へ通うことになり、武田の子供たちは勝倉尋常小学校へ通いました。

しかし、高等小学校は、明治20年に那珂郡役所があった那珂町菅谷に設置され、市域にはどこにも設置されませんでした。

明治22年（1889）、行政区の変更に伴い、枝川尋常小学校は、川田尋常小学校に、勝倉尋常小学校は勝田尋常小学校に改称されました。

なお、明治25年には、勝田尋常小学校に高等科が、明治26年 川田尋常小学校にも高等科が併設されました。

市毛国民学校

市毛小学校は、昭和16年に日立製作所の寄付金をもとにして建設されました。この学校については、昭和13年ごろから川田村の大きな政治問題となっていました。それは、

- ①川田尋常高等小学校が那珂川沿いにあり洪水の被害を受けやすかったこと
- ②台地上の津田・市毛・堀口の児童にとっては通学距離が長く不便であったための学校移転の問題でした。しかし、枝川の住民の猛烈な反対があり、なかなか結論を出すことができませんでした。



昭和48年当時の市毛小学校

その後、日立製作所の進出が決まり、人口増加に伴う児童の増加が予想された結果、日製側から学校建築費、敷地

買収費、川田尋常高等小学校の修築費を寄贈することが提案され、一気に問題の解決へと向かいました。



市毛小学校の木造校舎 内部（昭和37年頃）

当初は、東石川国民学校と同じ昭和16年4月の完成予定でしたが、工事が遅れたため9月となり、開校時の児童は432名でした。校舎は、2階建て15教室（普通教室12、音楽室、工作室、裁縫室）。開校した市毛国民学校は、日立製作所水戸工場、日立兵器工場、岩佐鉄工所が本格的な操業を始めるにつれて、従業員の子弟が「つぎつぎと入学し、学級の増設が急務となりました。」

- 昭和17年9月の児童数…616名（学級数12）
- 1学級平均児童数…51名
- 昭和18年4月の児童数…742名（学級数14）
- 1学級平均児童数…53名

太平洋戦争 始まる！

このような状況の中で、市毛国民学校が開校したが、その3か月後に、人々を苦しめることになる太平洋戦争



太平洋戦争勃発



農作業中の枝川小学校の児童

が始まってしまいました。そのため、学校では、戦時色が強まり、教育内容は全てが軍隊式になっていきました。

昭和18年になると、「空の決戦場へと奮ひ起った学童達」と題した新記事が見られ、少年飛行兵をはじめ、少年戦車兵、通信兵、砲兵、防空兵を希望する高等科の生徒が現れました。（茨城新聞…7月20日）

しかも、学校間で軍隊合格者の数を競い合うような雰囲気になってきてしまいました。（勝田市史）

奪われた教室

昭和19年11月からは頻りに空襲警報が発令され、児童は勉強をしないで、防空壕に駆け込む練習だけが毎日行われるようになりました。さらに、「19年の冬に動員がかかりましたね。日製の工場に毎日通ったのです。学課は一つもやりませんでした。学校へ来たときは、さつまいもの草取りや下肥くみの仕事をさせられました。会社の中では、工員さんの使い走りです」と、児童の活動は勤労奉仕が中心となってきてしまいました。(勝田市史)

昭和20年ごろになると、国民学校のほとんどが軍隊の宿舎となってしまう、校舎での授業は行うことができなくなってしまうのでした。

○枝川国民学校…馬小屋を借り、土間に机と椅子を置いて勉強をしました。

○市毛国民学校…二階建て校舎の1階の床が全てはがされ、旋盤などの機械が据えられ、高射砲の部品等を製造する工場と化してしまいました。



当時使用された高射砲



昭和18年7月12日の茨城新聞記事より

6・3制の教育

終戦後の昭和21年(1946)11月3日に日本国憲法が公布され、その後、教育基本法、学校教育法が公布施行されました。これにより、現在と同じ「6・3制」となり、小学校(6年)、中学校(3年)の義務教育・男女共学制の教育が、さまざまな混乱の中でスタートしました。

勝田町立 勝田第二中学校の誕生

日本国憲法施行日(昭和22年5月3日)の翌日4日、勝田町立勝田中学校は、東石川小学校において開校式を行いました。しかし、中学校の校舎はまだ建設されていなかったため、7日から4つの小学校の校舎の一部を借用(東石川教場、中根教場、勝倉教場、枝川教場)して授業を始めました。

昭和23年1月20日、勝田町役場の南側(勝田町武田1101番地の13)に、二階建て15教室の新たな独立校舎が建てられました。しかし、生徒数が、昭和22年(663名)、昭和23年(1098名)、昭和24年(1254名)、昭和25年(1331名)と、大人数でした。そのため、新設された校舎だけでは生徒を収容することができず、第二校舎(日兵勝倉寮や日製武田寮等)を使い、分散授業が行われました。



工事が進む(昭和45年2月)

戦後のベビーブーム

戦後のベビーブームにより、児童生徒の増加がみられ、小学校では昭和33年、中学校では37年がピークとなりました。このため、勝田一中は昭和33年4月16日鉄筋三階校舎・木工室、勝田二中は昭和33年4月18日鉄筋三階などが新たに建てられました。市毛小学校の児童数も、30年代に入ると、ますます増加し、その対策がせまられました。



昭和46年の勝田二中



昭和37年当時の勝田二中全景

堀口小学校の建設

昭和41年4月1日、勝田町立堀口小学校が開校しました。当時のことが(市報かつた「第88号」)に次のように紹介されている。

『堀口小学校は、かねてからその新築が要望されていたもので既設の勝倉小学校、市毛小学校は人口の増加などによつて収容児童数に限界がきたため新しく堀口小学校の建設がされたわけです。また最近の交通量の増加により市毛、勝倉小学校の中間にある堀口、武田地区の児童生徒の登下校の安全のためにも新しい小学校の建設が望まれていました。』



現在の市毛小学校



どんぐり山 アスレチック



開校後の堀口小学校(昭和41年4月)



開校に向け建設が進む堀口小学校

津田小学校の建設

昭和51年3月10日、勝田町立津田小学校が開校しました。当時のことが(市報かつた「第289号」)に次のように紹介されています。

『津田小学校は人口増加地区を重点に学校問題解決のために設置されました。学区審議会の答申に基づき市毛小学校の過密を解消するために建設されたものです。なおこの建設については新しい試みとして住宅公社方式(公社が借入金により校舎を建設し、市が年次的に買上げていく方法)がとられました。』

津田小学校が建設された場所は市内津田字片岡前1974番地のみどりが多い良地で、国道6号線、津田農場入口交差点から約500mの距離があり、敷地総面積28500㎡、総工費4億6800万円。本年4月の開校時には、1年生から6年生をあわせて17クラス、667名の児童が通学する予定となっています。



建設中の津田小学校(昭和51年4月)



津田小学校全校集会

地域トピックス

消火器の放射演習を行いました

武田自治会

9月13日(日) 防災部員15名による防災備品の点検・補充を行いました。この中で耐用年数のきた消火器の有効活用を図るために実際に放射する、初めての演習を行いました。

この結果、火元へ勢いよく放射する時間は、5秒程度しかなく限られた時間での移動消火は難しいことなどが実演で分かり有意義な演習となりました。



薬剤回収袋に穴が空いた～!

花壇による美化活動

津田西山自治会

当自治会には、2ヶ所の自治会花壇があり、環境部会と子ども会が中心となり管理しています。本年度はコロナ禍の中、少人数での作業となりましたが、土壌作り、花の植栽、除草作業などを定期的に実施し、花壇には綺麗な花が咲き誇り、通る人々の目を楽しませていきます。

今後とも美化を通じて地域の活性化を図り、安らぎの場所にならばと願っています。



西山花壇のマリーゴールド

小学校運動会への支援

枝川自治会

当地区では毎年「小学校運動会」に対し、地域を挙げて支援を行っております。今年も9月26日(土)前日の雨も上がり、予定通り開催されました。

小規模校の利点もあり一般参加の種目もあり、三世代での楽しい運動会となりました。感染防止のため地域内の一般住民の支援・参加は自粛しました。

地域のミニユニの拠点である小学校は、地域の絆が強まる場であります。



消防団放水実技にも参加!

「コサ払い」できれいに なりました

津田第一自治会

7月5日(日) 前日の雨で実施できるか心配しましたが、小雨も止み無事実施できました。地域の皆様方のご協力も有り、短時間で終了しました。



津田駅周辺

第一自治会の地域は、水戸への抜け道として利用する方が多いので、安全安心のため毎年実施しています。

本町第一・第二公園 除草作業

勝田本町自治会

6月13日(土) (参加者110名) 7月25日(土) (参加者66名) 朝7時から除草作業を行いました。両日ともあいにくの天気でしたが、前日に自治会役員の有志の方が草刈機で下準備をして頂いたお陰で当日は短時間で作業が終了しました。

街が綺麗だと防犯に繋がるからです。これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



本町第二公園除草作業

自走式芝刈り機を購入 4つの公園に寄贈・配備

津田東自治会

津田東地区内には4つの街区公園があり、それぞれ近隣住民で構成する管理団体が、定期的に除草や清掃を行っています。

この公園管理団体に自治会員の8割以上が属しており、自治会として何らかの助成、支援を考慮しております。

コロナの影響で、今年は計画事業の多くが中止となり、予算的に余裕ができたので、役員会に提案決議を受け、自走式エンジン芝刈り機4台を購入、各公園に寄贈配備しました。除草作業の大きな戦力として活躍してくれよう。



女性でも楽に運転

防犯灯管理プレートの点検修理を実施

津田第二自治会

自治会管理の防犯灯は、現在142灯あり、電柱に設置しております。その電柱には管理を容易にするため、プレートを付けています。電灯が切れている時や破損に気づいた場合には、この管理番号で迅速に修理等に対応し、地域の安心と安全に最優先に取り組んでおります。

また市の補助制度を活用し、防犯灯のLED化も進めております。



修理したプレート



破損したプレート

実践部会活動報告

市道植樹樹花植え

環境部会

コロナ禍の10月4日(日)に津田運動ひろば北側の市道植樹樹(30株)にパンジーを180本植えました。今年も苗の成育不良のため一週間延期しての実施となりました。(ホームセンターより購入) 管理が良ければ来年より購入) 管理が良ければ来年より購入) 管理が良ければ来年より購入)

6月頃まで花を楽しみ事ができますので、追肥・除草に努めてまいります。通学・通勤・散歩の人の目を楽しませられれば幸いです。



パンジー植作業中

ふれあいサロン活動の再開

ワイワイふれあい館

コロナ禍により開催を休止していた「ふれあいサロン」を約半年ぶりに10月1日(木)より再開しました。

まだまだ終息の見えないコロナ禍ですが、3密とならないよう細心の注意をはかり、飲食も最小に、当分「昼食なし」での再開です。また10月8日(木)には、火災発生を想定した初期消火および避難



初期消火訓練の様子

訓練を実施しました。なお今年度予定の館恒例のイベント「お月見会」(10月)、「ワーホイ」(11月)、「ひなまつり」(2/3月)については、中止することとしました。

案内板

◆第37回 津田コミセンまつり 中止

◆第37回 枝川ふれあいまつり 中止

◆子どもふれあい館 クリスマス会 中止

◆津田ワイワイふれあい館 ワーホイまつり 中止

◆ふくわの集い (音楽芸能発表会) 中止

編集後記

コロナ禍で先が見通せない中、異例の編集方法をとってから2回目の発行となりました。今回は市毛コミセンのご指導の下、十分なソーシャルディスタンスを保てる大会議室をご提供頂き、アルコール消毒・検温・換気など感染対策には万全を期しながら全広報委員の方に参画を頂き、新しい編集となりました。新しい生活様式が叫ばれる中、今、災いを福に転ずる発想から、本広報紙も従来のワンパターンから抜け出して、冒頭でも述べています。二中学区の歴史の変遷を振り返る好機と捉え、従来には無い内容で編集をしてみました。特に、若い方には興味を持って頂き、ご年配の方には回顧録として見て頂けますよう考慮してみました。読者の皆様のご意見を、ぜひ次号に反映させたいと思います。各自治会の広報委員を通してご意見をお寄せ頂ければ幸いです。